

AKIRA FIRE



2018年（平成30年）12月11日(火)発行

発行 川越東高等学校新聞文芸部

郷土再発見とは

2016年度から約2年半、ひんがし倶楽部で続いている連載記事。記者の地元を中心に県内各地の様々な魅力を紹介する。

第153号

都心に近い貴重な緑地

さいたま市「見沼田んぼ」

【郷土再発見】 第4回さいたま国際マラソンが12月8日、9日にさいたま市で行われた。大会は来年の世界陸上や2020年に行われる東京オリンピックの選考レースを兼ねており、新聞文芸部もプロの記者に混じり取材をした。これに際し大会のコースの一部である見沼田んぼの魅力を紹介する。 (文、写真)鎌田悠生



見沼田んぼを北から南へと縦断する荒川。左奥にはさいたま新都心の高層ビル群が、さいたま市緑区



さいたま市立旧坂東家住宅見沼くらし館は見沼田んぼ北東部に位置する。坂東家は見沼田んぼの内、加田屋新

古民家 さいたま市立浦和のくらしの民家園は見沼田んぼ南部に位置する。園内には旧浦和市内から移築された民家や倉庫など、7棟の建物と更新棟や稲荷社がある。特記すべきは園の入口近くにある土蔵造りの石蔵「旧浦和市農業協同組合三室支所倉庫」。園内で唯一、国指定文化財に登録されており、大正8年に建設された。

田を開発した名主。平成4年の発掘調査では、一分銀400枚が発見、展示されている。 農園 特色は田んぼだけではない。観光農園が見沼田んぼの各地に点在している。農園は、田んぼで利用していた広い土地を利用しており、ナシやブドウなどが販売されているほか、果物狩りの体験ができる。また、植木が盛んなこの地域では、庭に植樹する苗木などの栽培が行われている。



メタセコイア並木

並木 見沼田んぼの中心部、芝川と加田屋川が合流する地点に約180年ほど早い建設であり、国指定史跡に指定されている。

見沼通船堀 見沼田んぼ最南端に位置する見沼通船堀は、江戸時代に江戸への水運のために建設された。これは同じく閘門式運河の「パナマ運河」より約180年ほど早い建設であり、国指定史跡に指定されている。

解説 見沼田んぼ(みぬまたんぼ) さいたま市の中央部と川口市北部にまたがる南北に細長い地域。縄文時代は古東京湾が入り組んでおり、周辺地域には多くの貝塚が発掘されている。その後、海が後退し広大な沼地となった。この沼の水神を祀ったことが起源とされる氷川神社は、多くの参拝客でにぎわう。また、江戸時代に行われた大規模な干拓で、見沼に代わる水源確保のために造られた見沼代用水は、見沼田んぼの西縁と東縁を南流、江戸への水運としての役割も果たした。戦後、埼玉県の保全活動などにより、都心に近いながら大規模な緑地帯として残っている。